

# どんぐりだより

第30号



横浜シュタイナーどんぐりのおうちをささえる会





日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。2024年度は3月に3名の卒園児を送り出します。どんぐりのおうちには多くの方々に支えられ、新年度を迎えることができます。

## 楽しいお散歩

<2024年度担任教師 横山 径子>

毎週水曜日は散歩の日です。リズムがある生活はこどもの心と体を健やかに育てていきます。一年のリズムから一日のリズムまで、シュタイナー幼稚園ではリズムのある生活を大事にしています。どんぐりのおうちでは、週のリズムの中で、(荒天の日を除き、)水曜日を散歩の日にしています。その曜日のおやつはきびがゆ。おやつの時間に年長のこどもが“今日は散歩だね”と話しています。大きくなるときびがゆの日にお散歩があるとわかってきます。リズムのある生活が習慣となり、今日何があるかを感じ取れるようになります。これは、無意識のうちに、生きていくことに対する安心感が生まれてきているといえます。

さて、今回は毎週水曜日の散歩の時のこどもたちの様子をお伝えしたいと思います。おやつを食べ終わりトイレにいき、散歩の準備をします。散歩が楽しいこども、外遊びが好きなこども。“歩きたくない”“走りたい”という声も聞こえます。散歩は恩田川の川辺を中心に出かけます。

恩田川までは横断歩道を渡り、消防士さんの練習場を通して、消防士さんが綱を使って訓練しているのを見ることがあります。こどもたちは、畑の間の柵の所を平均台の上を歩くように1人ずつ歩きます。年長のこどもたちは1人でスタスタと歩いていけます。自信のないこどもは保育者と手をつないで歩きます。年長さんたちは早く歩けるのでちょっと先の場所で待っててもらいます。ゴールデンウィークが終わると田植えの準備になるのでトラクターが田を耕しています。こどもたちはトラクターが右に左に動くのを楽しそうにみえています。耕している田んぼにカルガモの親子が散歩していたり、シロサギがゆっくり歩いていたりとのどかな風景です。田植えも田植え機が動いてきれいに

稲が並んで、とっても気持ちがいいものです。田植えが終わると田んぼと田んぼの間のあぜ道を歩きます。苗を踏まないようにまた田んぼに足が入らないように、端っこを、気を付けて歩きます。湿ったところはグニャグニャしていて楽しそう。ゆっくり歩いたり速足で歩いたり、草花を摘み、石を見つけポケットはパンパンです。

雨の日の散歩もまたとても楽しいです。こどもたちに、“先生あの雨の沢山の所に行きたい”“水たまりあるかな”と話してきます。“雨散歩好きじゃない”ということもいます。渡されたレインコートを着て、レインコートのフードをかぶりレインハットもかぶって準備万端です。

散歩の途中で立体の駐車場があります。その所に立つと上からの水がザーザー流れてきています。雨が強い時はザーザーと滝の様に流れてきます。こどもたちはたくさん流れてくるところにまっすぐに立ち、頭から雨水が当たり、流れるのを楽しんでいます。時には顔をあげてピチャピチャになり……。水たまりにもジャブジャブ入ります。深いところがあったり、ぺちゃぺちゃと歩いたり、こどもたちのレインコートはアウトドア使用のものなのでちょっとの雨でも全然濡れません。寒くなるまでは雨の日の散歩もとても楽しいです。

歩くことは、右脚の動きと左脚の動きを調和させ大地との関係を作ることを学びます。足の動きの拍子は、リズムが腕と手の動きと呼吸を整えます。

ゆっくり歩くことは、呼吸を整え、リズムを作ります。

こどもたちの成長をおおいに助けてくれるお散歩。ここにも喜びと楽しさが常にあります。こうして、こどもたちと過ごす時間を大切にしたいと思っています。

いつも支えて頂いている在園児保護者、卒園児保護者、また日頃からこの園の活動に関心を寄せて下さっている皆様方に本当に感謝しています。どうもありがとうございます。



# 親子クラスの再開

<助手 寺本 藍>

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために自粛していた親子クラスを、5年ぶりに再開しました。

対象年齢を7か月から3歳までにしたところ、今年度は8か月から2歳7か月までの親子4組が参加をしてくれました。親子クラスは初めてシュタイナー教育と出会う場所。どんぐりのおうちで過ごす子どもたちと同じように、登園してから行うおやつ作り、自由遊び、ふれあい遊び、おやつ、お話、、、とリズムのあるプログラムで進みます。

自由遊びの時間、大人は何もしないで見ていただけということはありません。シュタイナー教育では「大人も仕事」として手仕事を行います。親子クラスの手仕事では、羊毛モビールや積み木づくりをしました。子どもたちはお母さんのそばで手仕事の様子を見たり、触ってみたり。お母さんのそばにいる安心感で徐々に離れて遊びに行く様子も見られました。大切なのは子どもにとっては大人も環境の一つであるということ。大人の楽しい、心地いいが子どもにも伝わります。

0～3歳という年齢は人が人生で一番大きく変化（成長）する時期です。まだ抱っこで過ごす8か月、お母さんから離れたくない1歳半、一人あそびを楽しむ2歳、お母さんのやっていることが気になる3歳。一つの空間でそれぞれの成長過程を見ることができる貴重な時間だなと感じました。お母さん方も子どもたちの様子を見ては懐かしく思ったり、こんな風にできることが増えるのかと思ったり・・・ほんわかした雰囲気です。子どもたちを見守っていたのが印象的でした。

2025年度開催！

## 未就園児親子クラス りすのおやつ

日時 【前期】 5/19(月) 6/2(月) 7/7(月) 9/1(月) 10:00～12:00

対象 月齢7か月～未就園児とその保護者

定員 6組 ※最終実施単位は2組。

参加費 全4回 8,000円（おやつ代、手仕事材料費を含む）

状況により、中止となる場合がございます。

詳しくはホームページなどでお知らせいたします。



## 2025年度から週2回の給食を開始します！

秋の収穫祭で頂く玄米ごはんとお味噌汁。毎年「おいしかった～」と、子供たちが大好きなごはんです。2025年度からは、あの給食が週2回（月、火曜日）食べられるようになります。秋から運営会議で話し合いを重ね、月1回の給食にトライし、準備を進めてきました。すでに子供たちからは「今日の給食おいしかった～」という嬉しい声が届いています。これからは毎週食べさせてあげられると思うと胸が躍ります。

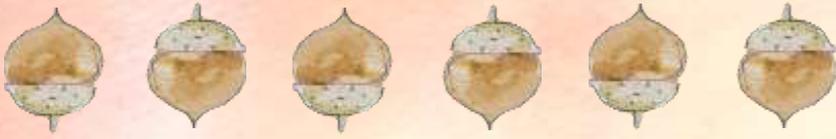
そして、これに付随して子供たちと一緒に味噌作りにも挑戦しました。今年の秋にはおいしいお味噌が出来上がるのでしょうか。とっても楽しみです。今後も教師と保護者が一丸となって、子供たちにとってより良いことは何かを考え、頑張っていきます。どうぞ応援をよろしくお願いいたします。



## 無償化対象の認可外保育施設になりました！

横浜シュタイナーどんぐりのおうちは、2020年3月に認可外保育施設になり、無償化対象の園になりました。（無償化給付制度の詳細は、お住いの自治体にご確認ください。）





## ～保護者の声～

### ◆どんぐり生活での実り◆

＜年長児保護者 千代 由美子＞

10歳差7歳差の、年の差兄たちがいる末っ子ポジションにとって、シュタイナー幼児教育で言われる「幼児期に大切な生活リズムを整えること」は至難の業と思っていました。ですが我が家は入園を機にトライ！結果、シンプルな「早寝早起き」のリズムが「ご機嫌で健やかな毎日に直結する」ことを肌で実感。一日のリズム、一週間のリズム、季節のリズムがどんぐりの3年間で定着しました。これを書いているのは12月、どんぐりのおうちで生誕劇を毎日繰り返す季節になります。するとどんぐりったちは、おうちでも外遊びでも劇で歌う歌を口ずさむように。今年もこの季節がやってきたと、一年の巡りに思いをはせながら、その歌声・姿の可愛らしさに大人の顔がほころびます。子どもと共にリズムある毎日を送ることは、メディアやスマホなどにリズムを乱されがちな大人にとっても、幸せで健やかな時間を享受することができるおまけつき。我が家は親子そろって、どんぐり生活で大きな実りを得たのでした！

### ◆こどもの成長◆

＜年長児保護者 薄井 裕香子＞

入園当初の行き渋りも、今では懐かしい思い出となりました。心身ともに大きく成長できたのは、安心感に包まれたどんぐりのおかげだと思っています。自然のものを色々なものに見立てて創造力豊かに遊び、手先も器用になり、雨の日でも晴れの日と同じように思い切って遊べる気力と体力もつきました。お友だちにも恵まれ、降園後にはお友だちと公園を走り回り、母親のわたしと自然に離れられるようになりました。朝登園して入室するときの背中が、どんぐりへの信頼感にあふれているなあと感じています。家では時折見せるライゲンの所作がとても可愛らしく、その姿を見ていると心が温かくなります。

こどもがこども時代をこどもらしく過ごせたことに感謝し、残りの3カ月も大切に送り出したいと思います。





◆**こどもにとって、ゆったりと安心できる毎日に**◆ <年長児保護者 山口 秩香子>

娘は2歳で小規模保育園で過ごし、年少で関連の園に転園しました。大きな保育園でした。お迎えから帰って玄関で泣いてしまうようになりました。靴も自分で脱げないくらい疲れてしまって。

緊張した毎日に体が付いていかなかったのだと思います。

娘の様子を見て、この子の子ども時代は何のためにある？と深く考えるきっかけになりました。そして年中の10月にどんぐりのおうちへ転入園することになりました。

「小さなはじまりの会」に向かう道。どんなお友達がいるのかなと道端の花を見つけながらどんぐりのおうちに歩いていきました。

温かな先生とお友達に囲まれて、娘はゆっくりとどんぐりさんに慣れていきました。毎日「今日はなに作るかな」とおやつ作りを楽しみに話すようになり、園舎での遊びを帰宅後に再現して、おうちをたくさん作りました。

初めてお弁当を食べる日の行ってきますと言った顔は、ほころびでわくわくした笑顔でした。「お日さまからどんぐりさんに行きたかったぁ」「夏祭りも劇も(年少、年中、年長の)三回したかったなぁ」と言う娘の姿を見ていて、子ども時代をのびのびと過ごし健康でいられることの素晴らしさを感じながら、転園してよかったと思っています。

◆**子育ての同志と共に**◆

<年中児保護者 稲田 瞳>

どんぐりのおうちに次男が通い始めて2年目。子どもはゆっくりと守られた安心の空間で毎日伸び伸びと自分を開花させています。そんな子どもたちを見させてもらう幸せは何物にも代え難いものです。

それと同じように私の中で日に日に強く感じるのは、子どもの成長はもちろんのこと、お母さん同士のつながりがこんなにも頼もしく、ありがたいものだという気持ちでした。ささやかな子育ての悩み、シュタイナー教育を実践しようとしているからこそ出る迷いや工夫を分かち合う事ができました。このような気持ちを受けとめあっていける仲間存在は、この時代において、簡単に手に入るものではありません。このどんぐりのおうちという存在に出会えたことを心から感謝する日々を送っています。





### ◆紐と布で十分◆

＜年中児保護者 佐久間 綾乃＞

我が子がよく遊ぶ道具は「紐」と「布」。「ママご飯作ってあげるー！」と部屋の隅に行き、布と衝立で仕切りを作り台所準備すると、毛糸で編んだ遊び紐をグルグル巻いてケーキ作り。木の実と混ぜたらうどんも完成。案内されたテーブルの上には綺麗に畳まれた布。メニュー表となった布を指さし「メニューを選んでください」と満面の笑み。片付けになると「ゆらゆら天までとどけ～」と布を2人で持ち歌いながら畳む。片付けも遊び。おもちゃじゃない物もすべておもちゃにして楽しんでしまう。大人が遊んであげる、物を用意してあげる、とお世話をしてあげる存在では決してなかった。シンプルと自然素材、ちょっとした工夫が気づかせてくれた、子どもの心の豊かさ。本当にすごい。

### ◆夏祭り◆

＜年少児保護者 室井 友香里＞

暑い暑い夏の日。毎日外遊びの時間に自分たちの庭のように慣れ親しんで遊んでいる石田公園で、今年度も夏祭りが行われました。4月の慣らし保育はあっという間に終わった年少の娘。その後、行き渋りが始まり、登園時は大泣き、大暴れ。中々園舎にたどり着かず、石田公園で泣いて逃げるなど、母子共に辛い朝の時間が続いていました。そんな中、1学期の最後の催しである夏祭り。この日を経て娘は確実に変わりました。みんなで踊ったり、ゲームをしたり。その後、園舎に戻っておにぎりや夏野菜、デザートにスイカを食べる。これが楽しかったようで、夏祭り後から夏休みに入るまでの数日は、不安そうな顔はするものの、大泣きせずに登園できました。本当に不思議な体験でした。夏休み明けたら、また大泣きしちゃうかもね、と夫婦で話していましたが、良い意味で期待を裏切ってくれ、2学期からもすんなり登園できています。ただ楽しいだけでなく、私と娘にとってとても大きな節目となった夏の1日でした。





### ◆父親から見える子どもの成長◆

＜年少児保護者 江川 将太＞

それまではほとんど家族ばかりの安心できる環境で過ごしてきた人見知りの我が子が、果たして新しい共同体に入っていけるのか不安 90%で迎えた初登園でした。それからしばらくはやはり人見知り全開だったようですが、それも時間の問題で今ではすっかりどんぐりが生活の一部になっています。それまでは意味を持たなかったただの布切れをエプロンにし、どこにでも落ちているような木の枝や石で料理をしています。仕事から帰ると、いつも違う料理を作って待っていてくれることに癒されています。毎日色々な物の組み合わせで日常の真似事をしており、その無限とも思える想像力に大人たちは驚かされるばかりです。どんぐりに通うようになって、我が子を取り巻く環境全体が温かく穏やかなものになったように感じます。家族の輪の外でできたもう一つの安心できる環境は、我が子のこころを優しく包み込んでくれています。

### ◆子育ての力がもらえる場所◆

＜年中児保護者＞

どんぐりのおうちは、穏やかで温かみのある空間やリズムのある歌や遊びが心地よく、少人数で兄弟のように過ごすことができます。また、子どもたちのキラキラと輝く目がとても印象的で、今では息子も毎日楽しそうに園に通っています。私たちは今年度の途中から入園しました。この園に来るまでは、保育園などに通っていましたが、保護者との関わりも少なく、仕事や子育て、家事をしていると、段々と子育てのエネルギーがなくなってきてしまうことがありました。しかし、どんぐりのおうちの仲間になってからは、尊敬できる先生や保護者の方から子育ての力をもらうことができました。一人ではなく一緒に子どもたちの子育てをすることができ、この園に来て本当によかったです。



## どんぐりのおうちと一緒にサポートしませんか？

サポート① 賛助会員

**どんぐりのおうちを支える会賛助会員** 年会費 3,000 円

「横浜シュタイナーどんぐりのおうちをささえる会」は、横浜市緑区にある同名の運営・活動を支援する会です。2006年4月に有志の保護者と教師により、シュタイナー幼児教育理念を基本した保育実践の園を開園しました。教育の多様性に賛同される多くのみなさまのおかげで、どんぐりのおうちは今年で開園20年目を迎えます。今後もどんぐりのおうちの運営・維持に力を貸して下さる方や入園を考えていらっしゃる方などのご入会をお待ちしております。賛助会員の方には、本誌「どんぐりだより」(年1回創刊)を送付いたします。

サポート② 寄付

**口座振込はこちら**

ゆうちょ銀行から

記号 10270 番号 27066141

ゆうちょ銀行以外から

店名〇二八(ゼロハチ) 店番 028 普通口座 2706614

## 寄付ありがとうございます！

2024年2月～2025年1月末までに、下記の皆様よりご寄付いただきました。ご厚意に心から感謝申し上げます。(敬称略)

横山径子・四十物なぎさ・上田奈々・石原美佐子・黒野美香・スローマン晶子・川原井麻子・徳田千穂・紙谷愛・広瀬めぐみ・河野道子・秋山真弓・匿名寄付





## 園児募集中！

新入園児を募集しています。満3歳の誕生日を迎えられたお子様は、年度途中でも入園ができます。

また、転入園児も募集しています。入園説明会を開催していますので、お気軽にお問い合わせください。



**どんぐりだより第30号** 2025年3月発行

横浜シュタイナーどんぐりのおうちをささえる会  
横浜市緑区十日市場町 871-10 ウィライブ十日市場 103号  
TEL/FAX 045(985)7634  
電話:平日 14:00-15:00 (左記以外は留守電対応)  
メール:info@y-donguri.org

フォローしてね！



Homepage



Instagram